

令和元年度 第1回玉野市総合教育会議 議事概要

総合政策課作成

日時 令和元年8月27日(火) 11:00～11:40 玉野市役所3階 特別会議室

出席者 【構成員】 市長 黒田 晋
教育長 石川 雅史
教育長職務代理者 野田 洋二
教育委員 大川 佳郎
教育委員 妹尾 恵美
教育委員 加藤 正枝

【事務局】 教育次長、教育総務課長、学校教育課長、就学前教育課長、社会教育課長、教育総務課長補佐、教育サポートセンター事務長、政策財政部長、総合政策課長、総合政策課主幹、総合政策課主任

1. 協議事項

- (1) 今後の重要な教育行政課題について
- (2) その他

2. 議事概要

市長 議事にある「(1) 今後の重要な教育行政課題について」に関して、教育長より説明をお願いしたい。

教育長 空調整備の関係について、現状の説明をさせていただく。

昨年、大変な猛暑の中、市としてこれまで計画がなかったところ、7月以降に対応し、その後11月・12月に補正予算を組み、第1弾の整備を進めている。その結果、資料の③のとおり、95台に鉾立小の特別教室1台を加えた、計96台が整備されることになる。全国的に一斉に整備している中、確実に第1弾の整備を進めていくことが大事だと考えている。

市長 現在、第1弾の整備に取り組んでいるところだが、保護者をはじめ様々な方から第2弾の具体的な要望・期待が寄せられている。これまで申し上げてきたのは、第1弾の措置が完了した令和2年度夏の運用状況をみて、令和3年の最終ゴールを目指すという説明を行ってきた。

全国的な傾向だろうが、我々が想定していた以上に作業に時間を要しており、そうした中でも、目標を早期に実現したいという考えを持っており、教育委員会とも協議を続けている。財源の目処をつけた上で、議会とも協議し、できるだけ前倒しできるように考えており、各委員からもご意見をいただきたい。

- 教育長 第2弾の具体化について調整いただき、感謝申し上げます。
- 我々としても、第1弾の部分をしっかりやるのはもちろんだが、関係部局と協力しながら手続き・工事を進め、最終ゴールの令和3年夏に、第2弾の取組として実現できるように進めていきたいと考えている。
- 野田委員 昨日、新聞報道で、2学期の始業式を8月中に行うところが増えたとの記事があった。かつての同僚が岡山市内の中学校長をしており、最近の様子を尋ねたところ、最初にエアコンが設置されたのが7月の暑い時で、生徒が一番喜んだのは給食の時間であり、麺類など熱いものも落ち着いて食べていたとのことである。
- 大川委員 我々の時代に比べ非常に気温が上昇しており、暑いでは済まされない命の危険を感じており、そうした状況の中で順次設置いただければ子ども達の学校生活も大きく変わる。昨年、夏前に日比中を訪問したが、とてもではないが、暑さで立って話を聞いていられる状況にはなかった。
- 妹尾委員 小学生の子どもがおり、読書ボランティアとして学校に行くことも多いが、夏場は暑い。昨年は本当に暑く、子どもを学校に送り出すのが怖いくらい命の危険を感じていた。今年は雨の日が多かったこともあり、怖さは若干薄れてきているかもしれないが、今のうちに整備を進めていただければと思う。
- 加藤委員 岡山市内の小学校では、始業式を行うに当たり、体育館に集めるのが危険ということで、教室のテレビを通じて実施したという話も聞いている。
- 市長 各委員がお話しているように、暑さが尋常ではない。子ども達にとって良い環境で授業が受けられるのは大切なことであり、これからも整備を進めていただきたい。また、現場の先生においては、その時々適切な判断で対応していただきたい。
- 市長 教育環境を整えていくためにも、財源に目処をつけ、できるだけ早くにという話だと承った。市の方では、新しい病院・給食センターといった、公共施設の再編整備のために財源を確保して積み立てをしているところである。
- 教育長 できるだけ応えられるように、議会も始まるので協議を行い、少しでも安心してもらえるようにしていきたい。
- 市長 議事にある「(2) その他」に関して、教育長より説明をお願いしたい。
- 教育長 前回の会議において、市全体の話として、少子化が進む中での教育課題を議論させていただいた。
- 市長 来年度は商工高校の機械科一期生が卒業する年度であり、地域活性化という面で、若い力をどう活かしていくかという視点も大事であろう。次期総合戦略の策定に向けて、その辺りはどうか。
- 市長 総合戦略によって、子どもが産み育てられる環境を充実させ、出生数を増やしていきたいという目標は持っている。一方で、現実的に子どもの数が減っている中で、集団教育を受ける機会が中々ない子どももおり、合同プールの実施や、小規模校同士での合同授業にも取り組んでいる。
- 市長 直ぐに結論を出す話ではないが、今後の市の教育を考えていく中で、どういう形が良いのか、グランドデザインを考えていかなければならない。例えば、単純にA校と

B校、C校とD校を一緒にするというのではなく、大きな枠組みの中で考えていきたい。

一方で、地元にある学校が良いという意見もある。今回、結論をだすわけではないが、色々なパターンを研究・検討し、それを連動させて市の将来ビジョンに反映できればと考えている。政策財政部長から補足はあるか。

政策財政部長

今年度は、総合戦略の見直し時期である。玉野市は、予想していたより人口減少が進んでおり、転出抑制、出生率の向上など、様々な手立てを講じる必要がある。そうした中で、学生をどのように育て、かつその学生が地域で活躍していける環境をどのように整えるか、どういう形で人材を育てて地域で活かしていくか。いただいたご意見を踏まえ、総合戦略の中で、各事業の見直しや新規事業などを精査していきたい。

野田委員

波知に居住しているが、自治会の120軒の内、小学校の3～6年生は6人、中学生は1人しかいない状況である。人口を増やそうにも調整区域になっている。宅地にできる田畑が多くあり、八浜センターにも近い。センター周辺は坪10～11万円だが、波知は5万円である。調整区域を外せば人口も増えるのではないかと。難しいかもしれないが、総社市が取り組んだ話も聞いたことがあるので、何とかできるのではないかと。

また、玉野には海があるので、釣りを楽しみたい人も多くいるだろう。所有している船を係留できる施設を整備し、その近くに住居を構えてもらえれば人口も増えるのではないかと。

大川委員

ここ数年、人口減少が取り上げられているが、人口推計ほど正しい数値がでるものはない。生まれていないものが増えるはずもなく、少子化は人口減少に繋がっている。また、人口減少だけが世間で取り上げられているが、財政の問題にも着目すべきである。1人減ると税収も減る、買い物をしなければ消費税も減る、といった財政難に陥るといった危機感を持たなければならない。

東京の人口は増えているが、地方は予想以上に減っている。玉野市として、5年・10年のスパンの計画を立てていく中で、どれだけの人口で、どれだけの税収があって、教育にどれだけの資金を費やすことができるのか。そこを考えると、今できることをやっておかなければ、将来世代に大きな負担を残すことになる。1つの学校で全てが成り立つのではなく、機能を分散・連携していくことが大切であろう。今のままではない、という考えの上に計画を立てていくべきである。

妹尾委員

人口減少・少子化に危機感を持っている。外に出た若者が玉野に戻ってくれる仕組みづくりや玉野の良さをPRする情報発信が必要であろう。一方で、少ないなりの良さもあり、子どもに手厚く支援いただいている。良いところは残しつつ、柔軟に対応できれば良い。

学校の統廃合となればネガティブなイメージもあるが、中学校区で小学校合同のプールや授業を行ったり、高校を基盤に近隣の小学生を集めて何かするなど、柔軟な枠組みによる新たな方策について、市民の意見も聴きながら、構築できればと思う。

加藤委員

住みよさランキングが上位というのは、住んでいて本当に感じることだが、子どもの人数が少ないのもその通りである。玉野の良さが分かっている、そこに住み続けることができない事情もある。子育て世代に必要なものは、病院・学校・スーパー。

病院の整備は着々と進み、スーパーも市内には多い。他市から転入して来られた人には、公園の多さにも喜ばれており、どこでも子どもを遊ばせることができるという話も聞く。その反面、小さい子を育てた次のステップとして、教育レベルが自分達の望むものではないため、他市へ移るという話も聞く。

教育のレベルアップをぜひお願いしたい。以前は、玉高に行けば、自分が勉強さえすればどこの大学にも進学できたが、現在子育てをしている世代には、そうした考えや想いがないように感じる。他市では私立という選択肢もあるが、玉野にはない。産み育てられる環境として、安心して住み続けていくには、学校の選択という面でも、教育のレベルアップは必要だと考えている。

一方で、玉野の良さを感じ、子育てが終わった世代で移住してきている人もいる。そういう方々に対する生涯学習も充実させていく必要があるだろう。

市長

今後、総合戦略の議論などを通じて、総合教育会議や教育委員会の中でも研究・検討していただきたい。

教育長

加藤委員から話のあった高校の部分でどうしていくかについてだが、就職する子に対するインセンティブとしては、商工高校であれば、三井や宮原で学んだ子は、単にスキルが学べるというだけではなく、企業の人とコミュニケーションを取ることで、社会で生きていくために必要な力を身に付けられるというのが学校の魅力である。

県立高校については、一義的には県がやっていくことだが、市としてどのような側面支援ができるか、市内の高校生をどのようにサポートし、その後、地域の活性化に繋げていけるか考えていかなければならない。

県立を含むレベルアップの話であれば、子ども達が経験できるフィールドがレベルの高い場であることが必要だろう。どのような環境を整備していけるか、色々なフィールドを組み合わせるなど、考えていきたい。

市長

商工高校の野球部が3回戦まで進んだのは初めてである。高校の魅力アップを図る中で、玉高も危機感を持っており、地元の行事に積極的に参加したいので、声を掛けてもらいたいと学校側から言われている。商工高校は、UNOICHIなど、前面に出てもらっている。高校生が頑張っている中で、例えば野球部が勝ち進むとか、その他の部活も活発になれば、高校のイメージアップとしては良いことである。機械科ができたことで注目されているが、市立の2校をしっかりと支援するとともに、2つの県立ともうまく連携を図っていきたい。

本日は、前段は空調の話であった。教育委員会や保護者の意見を踏まえ、しっかり財源の目処をつけ、決まり次第、各委員には報告させてもらう。

後段は、総合戦略の話など、児童・生徒数が減っている中で、どのように玉野の子ども達を安全・安心に育てていくか、ご意見をいただいたところである。今後とも場面場面での議論をお願いしたく、様々な見地からご発言いただきたい。

了